

# 平成28年度 全国学力・学習状況調査結果の概要について

東松島市教育委員会

## 1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査実施日

平成28年4月19日（火）

## 3 参加児童生徒

東松島市内の小学校6年生（347人）、中学校3年生（380人）

## 4 調査結果による全体的傾向の概要

### (1) 教科に関して

小学校、中学校ともに国語、算数・数学において、A問題（知識に関する問題）、B問題（活用に関する問題）ともに県や全国の平均正答率と比較すると下回る結果となっています。しかし、前年度と比較すると、小学校国語B問題（活用に関する問題）を除いてはどの問題においても伸びが見られます。特に中学校国語A問題（知識に関する問題）については、県や全国の正答率とほぼ同等の結果が出ています。ただ、それでもまだ県や全国との差があることから、今後も、基礎・基本の確実な定着とそれをもとにした活用能力の一層の向上が望まれます。

※ 平均正答率…各児童生徒について全設問における正答数の割合を算出した値（個人の正答率）を足し合わせ、児童生徒の人数で割った値のこと。

### (2) 生活習慣等に関して

本市の小・中学生のテレビやビデオ、DVD等の視聴の時間及びゲームをしている時間、スマートフォン等を使用している時間は、県や全国と比べても長いことが分かりま

す。このことは、好ましい生活習慣づくりを阻害する要因になり兼ねません。適切な時間の使用の仕方について、改めて指導を行う必要があります。

### (3) 教科と生活習慣等の関連に関して

朝食をしっかりと食えることや決まった時間に就寝・起床することのように、家庭における基本的な生活習慣が身に付いている児童生徒や、テレビ等の視聴やゲーム、携帯電話・スマートフォンを使用する時間について節度を守っている児童生徒は、そうでない児童生徒と比べ、どの教科においても正答率がおおむね高い傾向が見られました。また、将来の夢や目標を持っている児童生徒も、正答率が比較的高い傾向が見られました。

## 5 調査結果（データ）の概要

### 5-1 教科に関する調査結果

#### (1) 正答率一覧（単位%）

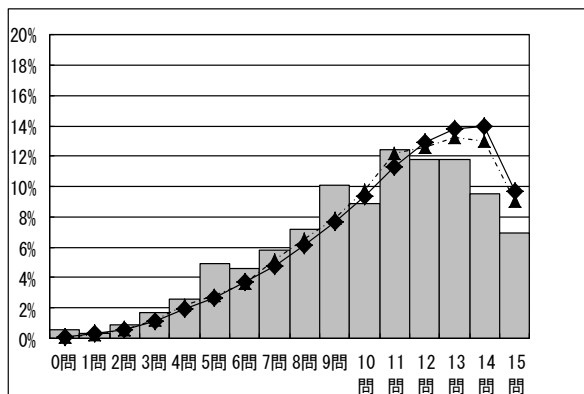
		国語「知識」に関するA問題		国語「活用」に関するB問題	
		28年度【前年比】	27年度	28年度【前年比】	27年度
小学校 6年	本市	67.8【+0.6】	67.2	51.3【-8.1】	59.4
	県 (県との比較)	72.0【+2.4】 (-4.2)	69.6 (-2.4)	56.2【-7.7】 (-4.9)	63.9 (-4.5)
	全国 (全国との比較)	72.9【+2.9】 (-5.1)	70.0 (-2.8)	57.8【-7.6】 (-6.5)	65.4 (-6.0)
中学校 3年	本市	75.9【+4.6】	71.3	65.2【+3.7】	61.5
	県 (県との比較)	76.9【+0.8】 (-1.0)	76.1 (-4.8)	67.9【+1.7】 (-2.7)	66.2 (-4.7)
	全国 (全国との比較)	75.6【-0.2】 (+0.3)	75.8 (-4.5)	66.5【+0.7】 (-1.3)	65.8 (-4.3)

		算数・数学「知識」に関するA問題		算数・数学「活用」に関するB問題	
		28年度【前年比】	27年度	28年度【前年比】	27年度
小学校 6年	本市	71.5【+0.3】	71.2	40.4【-1.2】	41.6
	県 (県との比較)	76.5【+2.4】 (-5.0)	74.1 (-2.9)	45.6【+2.9】 (-5.2)	42.7 (-1.1)
	全国 (全国との比較)	77.6【+2.4】 (-6.1)	75.2 (-4.0)	47.2【+2.2】 (-6.8)	45.0 (-3.4)

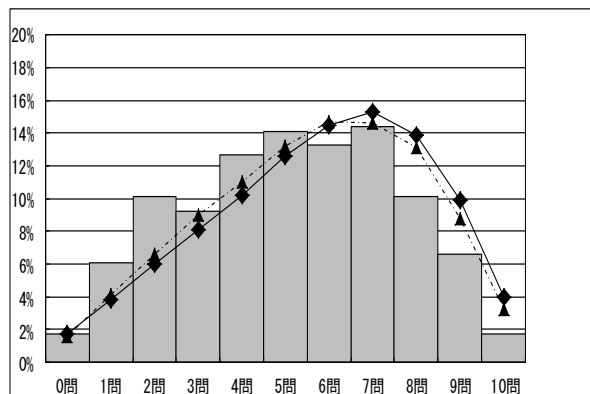
中 学 校 3 年	本市	57.4【+0.4】	57.0	40.5【+6.3】	34.2
	県 (県との比較)	60.4【-2.9】 (-3.0)	63.1 (-6.1)	43.8【+3.1】 (-3.3)	40.7 (-6.5)
	全国 (全国との比較)	62.2【-2.2】 (-4.8)	64.4 (-7.4)	44.1【+2.5】 (-3.6)	41.6 (-7.4)

(2) 正答数の分布

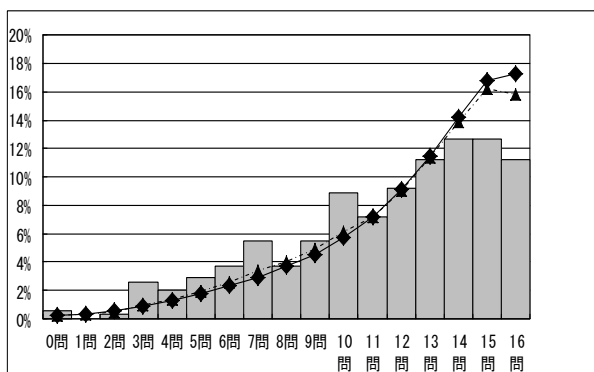
本市 ■■■■■ ---▲--- 宮城県 —◆— 全国 縦軸…人数割合 横軸…正答数



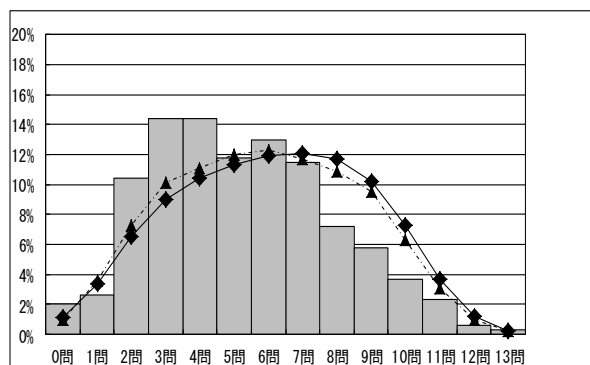
小学校国語A問題



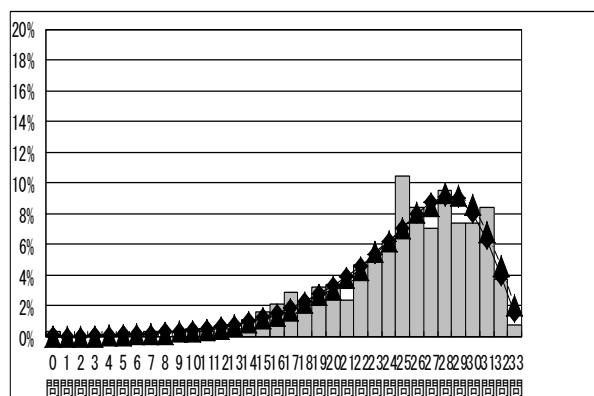
小学校国語B問題



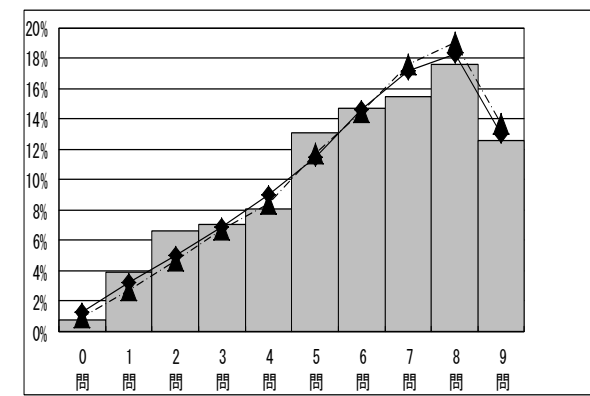
小学校算数A問題



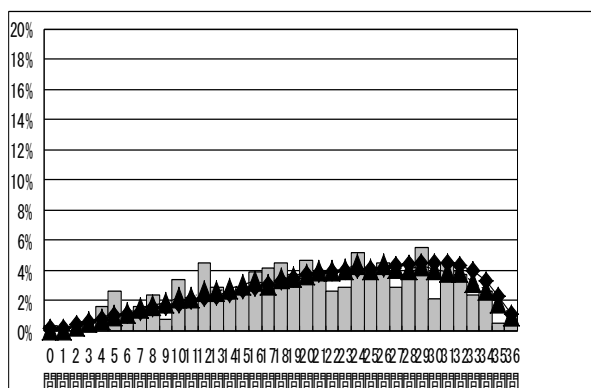
小学校算数B問題



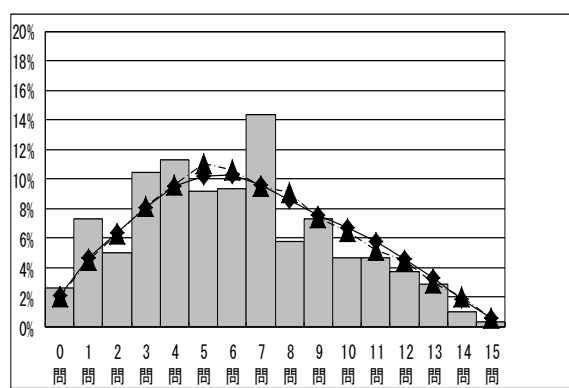
中学校国語A問題



中学校国語B問題



中学校数学A問題



中学校数学B問題

## (2) 各教科の調査結果に見られた主な傾向

※この調査結果は、今回出題された学習内容に対する結果であり、「学力」すべてを言い表しているものではありません。また、結果についても、学校における教育活動における一側面をとらえたものです。

○：県や全国とほぼ同等の正答率だった学習内容

●：県や全国と比較し正答率に差が見られた学習内容

### 【小学校国語A】

- 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読むこと。
- 目的に応じて、図と表とを関係付けて読むこと。
- 用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めること。
- 平仮名で表記されたものをローマ字で書くこと。
- ローマ字で表記されたものを正しく読むこと。

### 【小学校国語B】

- 質問の意図をとらえること。
- グラフを基に、分かったことを的確に書くこと。
- 目的に応じて、質問したいことを整理すること。
- 話し手の意図をとらえながら聞き、話の展開に沿って質問すること。
- 目的や意図に応じて、表を基に自分の考えを書くこと。

### 【小学校算数A】

- 除法における計算の確かめの方法を理解すること。
- 不等号を理解すること。
- 小数の除法の計算をすること。
- 1を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係を理解すること。

### 【小学校算数B】

- 図形を構成する角の大きさを基に、四角形を並べてできる形を判断すること。

- 示された式に数値を当てはめて、目標のタイムを求めること。
- 縦にかくことができる正方形の数を求め、24個の正方形をかくことができる理由を記述すること。

【中学校国語A】

- 文章を読み返し、文の使い方などに注意して書くこと。
- 相手や場に応じた言葉遣いなどに気を付けて話すこと。
- 話の展開などに注意して聞き、自分の考えと比較すること。
- 文脈に即して漢字を正しく書いたり読んだりすること。
- 語句の意味を理解し、文脈の中で正しく使うこと。
- 歌に表れた作者の思いを想像すること。

【中学校国語B】

- 目的に応じて必要な情報を読み取ること。

【中学校数学A】

- 垂線の作図の方法について理解していること。
- 対称移動した図形をかくこと。
- 円錐の体積は、それと底面が合同で高さが等しい円柱の体積の1/3であることを理解すること。
- 比例の式においてxの値の増加に伴うyの増加量を求めること。

【中学校数学B】…特に大きな差は見られませんでした。

5-2 学習や生活習慣の様子について

(1) 学習に対する関心・意欲・態度

[単位%, ( )は県との比較]

質問事項			小学校	中学校
1	国語の勉強は好きですか。	H28	56.8 (-1.3)	58.8 (-2.2)
		H27	60.0 (-0.9)	59.9 (-3.3)
2	国語の授業の内容はよく分かりますか。	H28	79.6 (-0.7)	70.0 (-5.4)
		H27	80.3 (-0.6)	73.1 (-2.7)
3	読書は好きですか。	H28	66.0 (-8.7)	72.0 (-0.1)
		H27	64.9 (-7.5)	71.9 (+1.3)
4	国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝えるように話の組み立てを工夫していますか。	H28	53.9 (-10.7)	54.0 (-8.7)
		H27	60.8 (-2.6)	54.3 (-7.0)

5	算数・数学の勉強は好きですか。	H28	61.1 (-5.2)	60.0 (+4.7)
		H27	67.6 (-0.6)	61.7 (+4.6)
6	算数・数学の授業の内容はよく分かりますか。	H28	71.5 (-8.1)	70.2 (+2.5)
		H27	80.9 (±0)	77.0 (+5.8)
7	算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。	H28	61.1 (-7.8)	41.8 (-1.3)
		H27	68.9 (+0.6)	43.2 (-1.0)
8	算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。	H28	79.6 (-5.4)	81.7 (+0.6)
		H27	83.7 (+1.4)	80.6 (-0.4)

※国語や算数の勉強が「好き」と回答している小・中学生の割合は、県の数値よりも低いものの、中学校については昨年度と比べ向上が見られます。小学校では特に算数の勉強が「好き」と回答している割合が、昨年度に比べ大きく下回っている。学習した内容が「よく分かる」と回答した割合も低いことから、学校は子どもが「分かる」授業づくりに今後も努めていく必要があります。

## (2) 基本的な生活習慣、家庭生活、家庭でのコミュニケーション

[単位%, ( )は県との比較]

No	質問事項	年度	小学校	中学校
1	朝食を毎日食べていますか。	H28	94.2 (-2.1)	91.9 (-2.6)
		H27	95.8 (-0.5)	95.6 (+1.0)
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。	H28	78.7 (-4.3)	75.7 (-3.6)
		H27	83.0 (+0.3)	71.1 (-8.2)
3	毎日、同じくらいの時刻におきていますか。	H28	87.6 (-4.1)	91.4 (-1.4)
		H27	87.7 (-3.6)	88.9 (-3.6)
4	普段(月～金曜日)1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ、DVDを見たり聞いたりしますか。(3時間以上)	H28	42.0 (+7.7)	29.2 (+6.0)
		H27	42.2 (+6.6)	31.8 (+4.8)
5	普段(月～金曜日)1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式ゲームを含む)をしますか。(3時間以上)	H28	23.6 (+8.5)	24.8 (+7.6)
		H27	24.4 (+8.5)	23.0 (+4.4)
6	普段(月～金曜日)1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。(2時間以上)	H28	10.1 (+1.1)	31.1 (+3.3)
		H27	14.7 (+6.7)	33.3 (+4.7)
7	家の人と学校での出来事について話をしていますか。	H28	76.0 (-4.5)	70.0 (-5.9)
		H27	78.3 (-1.7)	76.8 (+0.5)

※小学生、中学生の平日のテレビやビデオ等の視聴、ゲーム等をする時間、携帯電話やスマートフォンの使用時間の中で3時間以上テレビやゲームをする割合が昨年度よりも高くなっています。また、「朝食をしっかり食べる」と答えた割合が昨年度と比べ低くなっています。「はやね・はやおき・朝ごはん」を心掛けた生活習慣の改善が求められます。

### (3) 学習時間等

[単位%, ( )は県との比較]

No	質問事項	年度	小学校	中学校	
1	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。	H28	64.0 (-3.3)	45.7 (-6.5)	
		H27	67.0 (-1.1)	52.4 (-1.3)	
2	家で学校の授業の予習をしていますか。	H28	46.9 (-3.4)	35.5 (-9.2)	
		H27	46.1 (-4.4)	46.5 (-3.5)	
3	家で学校の授業の復習をしていますか。	H28	62.6 (-5.4)	57.5 (-5.9)	
		H27	64.4 (-2.6)	65.7 (+0.3)	
4	学校の授業以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(塾を含む)。	2時間以上	H28	19.9 (-0.6)	27.7 (-1.2)
			H27	17.8 (-2.3)	31.5 (+1.8)
		1時間以上	H28	34.6 (-9.3)	36.6 (-0.7)
			H27	42.7 (-2.0)	31.0 (-6.3)
		30分以上	H28	33.7 (+7.4)	17.8 (-1.9)
			H27	28.0 (+1.7)	21.4 (+2.4)
		30分以下	H28	10.1 (+2.9)	9.9 (+1.3)
			H27	9.7 (+2.9)	8.5 (-0.1)
5	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(小：2時間以上，中：3時間以上)	H28	13.6 (-7.5)	11.2 (-4.2)	
		H27	20.1 (-1.1)	14.2 (-2.4)	
6	学習塾(家庭教師含む)で勉強していますか。	H28	37.2 (+0.6)	57.2 (+3.5)	
		H27	42.7 (+5.3)	55.1 (+0.7)	

※小・中学生とも県平均値と比べると低い結果となっています。特に「自分で計画を立てて学習する」「家で予習・復習をする」ことについては県と比べ下回っており、家庭学習の確実な定着について改めて徹底を図る必要があると考えます。また、休日にしっかり学習に取り組む児童生徒の割合も昨年度と比べ低くなっています。普段の学校以外での学習時間については小・中学生とも「1時間以上、2時間より少ない」範囲が最も多いのが特徴です。

### (4) 自分を大切にしたいや社会のルールを守ろうとする意識

[単位%, ( )は県との比較]

No	質問事項	年度	小学校	中学校
1	自分にはよいところがあると思いますか。	H28	66.0 (-7.9)	61.6 (-6.6)
		H27	68.9 (-3.6)	58.4 (-7.8)
2	物事を最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。	H28	92.2 (-1.2)	95.3 (+1.2)
		H27	92.4 (-1.2)	92.8 (-1.0)
3	将来の夢や希望をもっていますか。	H28	89.3 (+3.7)	73.7 (+2.5)
		H27	87.7 (+0.2)	73.9 (+1.5)

4	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	H28	91.1 (-1.6)	95.3 (+3.5)
		H27	92.9 (+1.5)	90.7 (-1.9)
5	学校のきまり（規則）を守っていますか。	H28	86.2 (-5.5)	93.7 (-0.4)
		H27	91.6 (+1.6)	94.1 (+0.2)
6	いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。	H28	93.3 (-3.5)	96.6 (+2.9)
		H27	95.8 (+0.2)	92.5 (-0.1)

※将来に対する夢や希望をもつことについては、小・中学生とも県の平均値よりも高くなっています。ただ、小学生についてはそれ以外は県の平均値より下回っており、改めてきまりを守る大切さや様々な学習や活動における達成感を味わわせるような手立てが必要であると考えます。自分のよさを素直に受け止めることについては昨年同様課題が見られます。学校教育活動の様々な場において、友達、家庭、地域の方々とかかわりながら、互いのよさを認め合う場面を設定するなどの工夫を考えていく必要があります。

### 5-3 生活習慣と学力の関係について

#### (1) 生活習慣（就寝時間）と学力の関係

校種		平均正答率 (%)			
		国語 A	国語 B	算数・数学 A	算数・数学 B
小学校	同じ時間に寝る	74.0	56.8	75.6	43.4
	同じ時間に寝ない	51.9	34.0	49.3	27.3
中学校	同じ時間に寝る	75.7	63.5	56.0	39.7
	同じ時間に寝ない	72.7	66.7	54.9	38.3

※小学校・中学校ともに寝る時間が不規則な児童生徒の正答率は、そうでない児童生徒に比べて低い傾向が見られます。

#### (2) 生活習慣（起床時間）と学力の関係

校種		平均正答率 (%)			
		国語 A	国語 B	算数・数学 A	算数・数学 B
小学校	同じ時間に起きる	69.5	54.3	73.2	41.7
	同じ時間に起きない	55.0	33.3	49.2	19.7
中学校	同じ時間に起きる	75.6	65.5	56.4	39.9
	同じ時間に起きない	59.8	58.3	38.9	26.7

※小学校・中学校ともに起床時間が不規則な児童生徒の正答率は、そうでない児童生徒に比べて低くなっています。特に小学生は20%近い開きが見られます。



### (3) 朝ごはんと学力の関係

校種	朝食を毎日食べていますか。	平均正答率 (%)			
		国語 A	国語 B	算数・数学A	算数・数学B
小学校	食べている	69.4	53.3	73.3	41.8
	全く食べていない	37.8	28.3	33.3	19.2
中学校	食べている	76.9	67.5	60.0	42.7
	全く食べていない	69.7	46.0	42.9	20.0

※朝ごはんを毎日食べている児童生徒の正答率は、そうでない児童生徒に比べて高くなっています。小学生の算数 A 問題では40%の大きな差が見られました。

### (4) テレビやビデオ、DVD等の視聴時間と学力の関係

校種	普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ、DVDを見たり聞いたりしていますか。	平均正答率 (%)			
		国語 A	国語 B	算数・数学A	算数・数学B
小学校	1時間以上、2時間より少ない	66.5	54.3	74.2	45.6
	4時間以上	64.2	42.2	67.4	34.9
中学校	1時間以上、2時間より少ない	78.1	67.0	60.5	42.4
	4時間以上	68.2	57.4	47.5	33.5

※時間を決めテレビ等を視聴している児童生徒の正答率は、そうでない児童生徒に比べて高くなっています。

### (5) ゲームをする時間と学力の関係

校種	普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式ゲーム含)をしますか。	平均正答率 (%)			
		国語 A	国語 B	算数・数学A	算数・数学B
小学校	1時間より少ない	70.3	53.1	73.3	41.7
	4時間以上	62.8	45.0	66.8	34.6
中学校	1時間より少ない	77.2	67.8	61.1	41.2
	4時間以上	66.3	53.3	44.3	32.7

※時間を決め節度を守ってゲーム等をしている児童生徒の正答率は、そうでない児童生徒に比べて高くなっています。

## (6) 携帯電話やスマートフォンを利用する時間と学力の関係

校種	普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンを利用しますか。	平均正答率（％）			
		国語 A	国語 B	算数・数学A	算数・数学B
小学校	持っていない	70.7	53.8	73.6	42.7
	1時間より少ない	69.6	50.0	70.1	40.7
	4時間以上	51.7	24.4	52.3	20.5
中学校	持っていない	77.6	69.8	62.0	45.9
	1時間より少ない	78.9	68.8	61.9	47.3
	4時間以上	65.9	53.0	42.8	28.2

※携帯電話やスマートフォンを、時間を決め節度を守って利用している児童生徒の正答率は、そうでない児童生徒に比べて高くなっています。

## 5-4 自分を大切に思う思いと学力の傾向について

### (1) 自分を大切に思う気持ちと学力の関係

校種	自分にはよいところがあると思いますか。	平均正答率（％）			
		国語 A	国語 B	算数・数学A	算数・数学B
小学校	当てはまる（思う）	71.6	56.7	77.5	45.2
	当てはまらない（思わない）	61.1	41.1	60.1	32.4
中学校	当てはまる（思う）	72.6	62.9	54.3	37.3
	当てはまらない（思わない）	72.4	59.3	50.5	36.9

※自分を大切に思う気持ちをもっている小学生の正答率は、そうでない小学生に比べておおむね高くなっています。

### (2) 将来の夢や目標をもつことと学力の関係

校種	将来の夢や目標をもっていますか。	平均正答率（％）			
		国語 A	国語 B	算数・数学A	算数・数学B
小学校	当てはまる（もっている）	68.8	51.4	72.7	40.0
	当てはまらない（もっていない）	65.0	46.0	69.7	43.5
中学校	当てはまる（もっている）	76.1	65.8	59.1	41.2
	当てはまらない（もっていない）	74.3	63.5	51.6	37.1

※将来の夢や目標をもっている児童生徒の正答率は、そうでない児童生徒に比べておおむね高くなっています。

## 6 「確かな学力」の育成に向けた本市の取組

本市では、宮城県教育委員会が示している「学力向上に向けた5つの提言」(※)を踏まえ、児童生徒の「確かな学力」の向上を図るため、次のような取組を行っております。

### (1) 授業改善に向けて

- ① 各中学校区の小・中連携（矢本一中、矢本二中、鳴瀬未来中の小・中学校連携）による授業参観や授業研究を行い、小・中学校の円滑な接続に努めています。
- ② 大塩小学校は平成27年度から3年間、県教育委員会から学力向上研究指定校事業の指定を受けています。算数の授業づくりを中心とした研究を、県内外の小・中学校に学力向上推進の取組として発信していきます。大塩小学校のこれまでの実践は、宮城県で策定した「算数・数学ステップ・アップ5」に実践例として紹介されています。
- ③ 県教育委員会と連携し、学力向上サポートプログラム事業に市内の3つの小・中学校を指定し、国語、算数・数学の学力向上を目指した取組を進めています。
- ④ 今年度は市内小・中学校の教員10名に教科等指導員を委嘱しました。教科等指導員は、市内小・中学校の指導主事学校訪問において授業参観や各教科分科会へ参加をしたり、児童生徒の学力向上に向けた具体的な取組について研修会を開催したりするなど、授業改善や教員の指導力向上のための、市の中心的役割を担っています。
- ⑤ 市内小・中学校教員の参加希望者を対象に「教師塾」を年間10回実施し、毎回多彩な講師による指導のもと、教員自らの授業実践力の向上を図っております。
- ⑥ 国語と算数・数学の到達度テスト（CRT検査、対象：小2～中3）を実施し、市内小・中学校長会との連携によりその結果分析を市内小・中学校教務主任が行い、教務主任者研修会を通して授業の工夫、改善策をまとめ、各校の授業づくりに生かしています。

### (2) 学習習慣の定着に向けて

- ① 各中学校区ごとに、小・中学校が定期的に情報交換を行い、中学校区共通で学習習慣の定着について確認をし、指導の徹底を図っています。
- ② 学び支援コーディネーター事業により、「イトっ子学習会」を展開し、放課後や土曜・日曜、長期休業期間の児童生徒の学習をサポートしています。
- ③ 各家庭に配布しているリーフレット「家庭も学びの場ー望ましい生活習慣や学習習慣作りに向けてー」や児童生徒に配布している「学習の手引き」に基づき、家庭における生活習慣や学習習慣づくりの呼び掛けを行っています。
- ④ 各中学校区ごとに、学校図書館司書補助員を配置し、各小・中学校の図書室の本の整理をしたり、貸し出しにおいてバーコードシステムを導入したりするなど、児童生徒がより本に親しみ、読書活動に取り組むことができるような環境整備に努めています。

### (3) 志をもつ児童生徒の育成に向けて

- ① 市内の中学校区ごとに展開している「志教育」では次のような取組を行っています。
  - ・心あったかイートころ運動（「あいさつ」「清掃」「ゴミ拾い」）の継続的な実施と実践発表会（中学校区ごとに年1回）の開催。
- ② 各学校では、確かな学力を支える健康な体づくりと体力の向上に努めています。
  - ・「体力・運動能力調査」の結果考察に基づく様々な体力づくり運動の取組。
  - ・「はやね・はやおき・朝ごはん」の推奨。
  - ・子どもの健康な体づくりに向けた食育の推進。
- ③ 地域ぐるみで児童生徒を育てる教育活動の充実を図っています。
  - ・コミュニティ・スクールの推進（現在、指定校である鳴瀬未来中学校を中心に、平成31年度までに市内全小・中学校をコミュニティ・スクールに指定する予定で準備を進めています）。
  - ・協働教育（プラットフォーム）推進事業の充実。
  - ・職場体験学習等を中心としたキャリア教育の充実。

## ※「学力向上に向けた5つの提言」

（平成25年10月 宮城県教育委員会）

- 1 どの子供にも積極的に声掛けをするとともに、子どもの声に耳を傾けること。

どの子供にも一日一回は声を掛け、子供の話をじっくり聞くことが、心のケアや人間関係づくりにつながります。
- 2 子どもをほめること、認めること。

子供は、ほめられると集中力が高まります。授業中にほめたり認めたりすることは、学習評価の一つです。
- 3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること。

本時のねらいをより具体的に設定し、1単位時間で育てる力を明確にします。授業の終末には、子供の学びを的確に把握し後の指導に生かすようにしましょう。
- 4 自分の考えをノートにしっかり書かせること。

黒板を書き写すだけでなく、自分の考えをノートに書くように指導します。書くことは、思考力、表現力を育てます。ワークシートではなく、ノートづくりを徹底しましょう。
- 5 家庭学習の時間を確保すること。

学校で学んだことを家庭で復習することは、知識や技能の定着につながります。予習は授業での理解を早めます。何よりも、保護者から、子供に声を掛けたり子供の努力を認めたりすることが、家庭学習への意欲づけにつながります。そのことを保護者に伝えましょう。また、各学校で作成している「家庭学習の手引き」の中に、家庭学習のメニューを具体的に記載するとともに、適度な量の宿題を課しながら家庭学習を習慣づけましょう。

## 7 保護者、地域の皆様へ

今回の調査から、児童・生徒の「学力の向上」には、児童・生徒自らが学習に取り組むための環境づくりを学校と家庭がいっしょになって取り組むことが大切であることが分かりました。

市内小・中学校においては、自校の子どもの実態を踏まえ、課題と改善策を学校全体で共有し、共通理解のもとに職員一丸となって学力向上に向けた取組を進めていきます。

家庭においては、以下のような取組をお願いします。

- 基本的な生活習慣（はやね、はやおき、朝ごはん）を身に付けさせましょう。お子さんには、1日の生活時間の使い方をしっかり考えさせ、家庭学習の時間を確保するよう声掛けをお願いします。
- 「家庭学習7つのツボ！」（※）等を活用させ、お子さんが自分で学習に取り組めるようにしましょう。
- テレビ視聴時間やゲーム、携帯電話・スマートフォン等の利用については、お子さんとしっかりルールを決めて使わせるようにしましょう。
- 家庭での読書をさらに勧めましょう。
- 様々な場面において、子どものよさを見だし、本気でほめてあげましょう。
- お子さんの健全な社会性をはぐくみ、自尊感情や規範意識を高めるために、郷土の自然や文化、人と触れる幅広い体験をさせましょう。

### ※家庭学習7つのツボ！

東松島市学力向上推進委員会作成

- 1 宿題（課題）以外の学習メニューを自分で考える。
- 2 自主学習ノートをつくる。
- 3 何度も繰り返しやってみる。
- 4 いろいろなことに興味をもって、毎日コツコツ続ける。
- 5 絵や図、グラフなどを取り入れる。
- 6 覚えていないところ、苦手なところを見逃さない。
- 7 1週間のサイクルで自主学習ノートを振り返り、自分のがんばりを見つめる。

今後も、子どもたちに対して、家庭や地域の温かい見守り、お声掛けをお願いいたします。